

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会
「平成 20 年度 第 4 回 議事録」

日時	平成 20 年 10 月 3 日 (金) 10:30 ~ 17:20		場所	地盤工学会会議室	
委員長	後藤 聡		幹事	豊田 浩史	
幹事	川崎 了		委員	森田 宏	×
委員	小橋 秀俊	×	委員(WG1)	杉井 俊夫	PM のみ
委員(WG1)	細野 高康		委員(WG2)	川口 正人	AM のみ
委員(WG2)	太田 岳洋	AM のみ	委員(WG3)	渡部 要一	AM のみ
委員(WG3)	山本 肇	×	委員(WG4)	仙頭 紀明	
委員(WG4)	畠山 正則		委員(WG4)	上原 真一	
委員(WG5)	横田 聖哉	PM のみ	委員(WG6)	平井 貴雄	
委員(WG8)	石川 達也		オブザーバー	中島 伸一郎	PM のみ

:出席 :電子会議出席 ×:欠席
議事録担当:豊田 浩史

配布資料:

資料番号なし:平成 20 年度第 4 回室内試験規格・基準委員会議題書

資料 20-4-1:平成 20 年度第 3 回室内試験規格・基準委員会議事録

資料 20-4-2:赤本改訂版の解説 原稿一式

資料 20-4-3:基準改正案への会員からの意見

資料 20-4-4:地盤工学会「土質試験 基本と手引き」改訂編集委員会(当日配付)

資料 20-4-5:動的試験趣意書

資料 20-4-6:規格・基準に関する細則

資料 20-4-7:基準部委員会運営細則

資料 20-4-8:平成 21 年度委員会予算案

資料 20-4-9:平成 20 年度第 5 回理事会議題書

資料 20-4-10:平成 20 年度第 3 回基準部会議事録(案)

資料 20-4-11:基準部からの要望に対する回答(ふるい目に関する調査)

資料 20-4-12:会員からの質問に対する回答書

資料 20-4-12(1):会員からの質問に対する回答書(JGS 0311, 0411)

資料 20-4-12(2):会員からの質問に対する回答書(JIS A 1217)

資料 20-4-13:査読意見(WG3)

資料 20-4-14:「土質試験 基本と手引き」改訂編集 WG メンバー案

議 題:

【審議事項】

(1) 赤本改訂版の解説 原稿の査読

査読で出た主な意見は次のようであった。細かなところは、担当 WG から直接ファイルまたは手書き文書が WG4 に渡された。まだ提出されていない原稿の査読も 10 月中に終わらせるようにする。

<WG 共通>

- ・ 解説が古い基準の目次となっているものがあるので最新のものに合わせる。
- ・ 引用・参考文献の書式の統一(年号, ページ等)。
- ・ カタカナ表記の確認(「ー」が必要かどうか)。
- ・ はじめに出てくる外国語の人名にはカタカナ読みをつける。
- ・ 基準は JIS 表記に従うが, 解説は学会の表記法に従う(基準では「及び」, 解説では「および」など)。
- ・ 名詞には「かな」をつけるが, 動詞にはつけない(押出し, 押し出すなど)。
- ・ 「…強度」ではなく, 「…強さ」を標準とする。

<WG1 からの意見>

- ・ 「最大の粒径」と「最大粒径」とは同じものか?
- ・ メンブレンはゴムスリーブに統一。
- ・ 「保水特性曲線」は「水分特性曲線」。
- ・ 用語の説明が必要(粒子接平面, 土骨格剛性など)。
- ・ WG4 からのコメント: まだ仕上がっていない三軸関係の解説は, 順次サーバーにアップしていく。UU, CU, CU バーについては, 新規の解説が加わる。

<WG2 からの意見>

- ・ 意味が取りにくい箇所がある。
- ・ 「図…に示すように酸化やカビの発生にも有効である」とあるが図からは確認できない。特に白黒印刷になることに注意する。
- ・ 文章中に式を入れるのは適切か?
- ・ 試料の「取出し」と「拔出し」があるが, 統一する必要はないか。
- ・ 一軸圧縮試験の表記(総則の試験目的)が土と岩で違っているが問題はないか。
- ・ 現基準では, 軟岩と硬岩をわけることができるが(25MPa), それを理解した表記ができていくか。
- ・ 膠結物質が「溶融」は「溶解」が適切。

<WG3 からの意見>

- ・ 土丹の定義は正しいか。
- ・ 最新の ASTM を使う必要はないか。
- ・ 「マス」という用語の使用は適切か。
- ・ 図中の「Pattern」は「パターン」と日本語表記すべき。

<WG5 からの意見>

- ・ 基準と統一の取れた文章になるようにする。
- ・ 「考えられる」という表記が多く使われているが、断言できるところがある。
- ・ 「せん断荷重」、「垂直荷重」はそれぞれ「せん断力」、「垂直力」。
- ・ 「曲げ」と「モーメント」は用語を統一する。
- ・ 「試料」と「供試体」の使い分けをもう一度見直す。
- ・ できる限り参考文献を示す。
- ・ 「ダイレーション」という言葉の使用は問題ないか。
- ・ 「一定」と「定常」の使い分け。
- ・ 「せん断剛性」と「垂直剛性」の定義を書く。
- ・ c, ϕ を求めることが書かれている箇所に、「せん断特性の評価」というタイトルは適切か。
- ・ 「ピークせん断応力」は「最大せん断応力」。
- ・ 図を用いて説明した方がわかりやすいところがある。
- ・ 土の一面せん断試験については、後日意見を送付する。
- ・ WG4 からのコメント:土の一面せん断試験には、繰返し試験(液状化)も加える予定である。

<WG6 からの意見>

- ・ 「変形特性を求めるための繰返し試験」はまだ査読が完了していない。
- ・ 「基準化されていない土のせん断試験」では、まずどのような試験があるかについて述べるべきである。

<WG8 からの意見>

- ・ 「繰返し回数」と「繰返し載荷回数」の使い分けが不明確。
- ・ 飽和度 S_r は、%で表示した方がよい。
- ・ 定義されていない記号が使われている。
- ・ F_L は液状化安全率とし、式も記載すべきである。
- ・ 係数 C_3, C_4 についても簡潔に何か記述すべきである。

<その他>

- ・ WG1 の第 3 編第 1 章概説に関しては大きな修正はない(WG4)。
- ・ WG2 の「土懸濁液の PH 試験方法」は、まだ査読が終わっていない(WG6)。
- ・ WG6 の第 1 章と第 2 章はまだ完成していない。

(2) 基準改正案の公示結果について

基準改正の公示が終わり、会員からの意見があったのは「土の透水試験方法」と「土の段階載荷による圧密試験方法」であった。会員からの意見に対する回答案が WG3 より出され、これを認めた。透水試験の単位については、学会誌掲載文章、用語辞典、地盤調査法での取扱についても追記する。10 月中にすべての基準の公示結果(学会誌掲載)を各 WG で作成して、調整後、11 月の理事会上に上申する。参考に、JIS 規格改正公示結果の書式を送付する(豊田幹事担当)。

(3)「土質試験 - 基本と手引き -」改訂編集WGメンバーについて

前回出版時と同じメンバー案が提出され、これを認めた。今年度はメール審議を行い、来年度より本格的に活動する。本委員会との連絡は、両方に参加することになる杉井委員にお願いする。

(4)新規基準検討WGについて

「断層材料及び岩石の室内における動的な繰返し強度・変形試験方法」基準検討WGの設立趣意書が示され、このWGの設立を認めた。ただし、次のような意見が出され、趣意書を再度検討することとした。次回基準部会に上申する。

- ・ 断層材料とはどのようなものをいうのか。タイトルにこの用語は必要か。
- ・ 土の試験との違いは何か(具体的な試験は？動的の定義は？)。
- ・ 背景を短くまとめ、かつ試験がイメージできるものとする(1ページ以内)。

(5)平成21年度予算案について

積み上げによる平成21年度予算案が示された。上記の新規基準検討WGの分30万円を加えて提出することとした。最終決定後は、室内試験規格・基準委員会内で再度配分し直す。

(6)その他

平成20年度の予算執行状況が示された。最新の配分額のものを確認して連絡することとした(豊田幹事担当)。一般会計が赤字とならないように努める。今後の予定は、WG1:コアメンバーだけが集まる予定である。WG4:一部のメンバーが関西で集まる予定。また幹事とグループリーダーの会合を持つ。WG6:余裕がないので、刊行事業の分を使って集まる。WG8:コアメンバーだけが集まる予定である。

【報告事項】

(1)平成20年度第5回理事会の報告

理事会の報告がされた。理事会において、基準部長より、ふるいに関する国際的情勢調査の報告が行われた。

(2)平成20年度第3回基準部会の報告

基準部会の報告がされた。主な話題は、第44回地盤工学研究発表会のDSの募集、英訳基準の例文収集(ISO国内委員会が対応)、JIS規格改正のJISCの土木部会での審議は2月の予定(説明者を派遣する必要有り)などである。

(3)会員からの質問への対応

2件の会員からの質問に対する回答が報告された(すでに質問者等には送付済み)。

(4)ふるいに関する国際的情勢調査報告

ISO国内委員会と共同で作成した、ふるいに関する国際的情勢調査報告(基準部会および理事会提出資料)が説明された。

(5) その他

- ・ 書式のファイルをサーバーの「書式」フォルダにおき(豊田幹事担当),間違いがないか最終確認をお願いします。
- ・ 基準中の章節の番号を解説で使う場合は,四角枠で囲い,区別できるようにする。
- ・ 細目は通常 2 マスあけて文章をつなげるが,重要なものが示される場合は,改行している(WG4)。
- ・ 第 3 回委員会議事録に記載がある「第 2 細目」の (), (), ()…については, a), b), c)…の誤りであることが確認された。後日最新の執筆要領を送信する(豊田幹事担当)。

次回委員会では, JGS 基準改正の公示結果の最終案作成と残りの解説案の査読結果報告を行う予定。開催日は, 第一候補:11 月 6 日, 第二候補:11 月 7 日, 第三候補:11 月 13 日とする。

以上